

## 拠出金名：国際農業研究機関拠出金

分担金・義務的拠出金の有無		有(所管官庁)		無	
当該機関等に対する分担金を含めた平成20年度の拠出総額				57,567千円	
国際機関等名	国際とうもろこし・小麦改良センター (英文名称・略称) International Maize and Wheat Improvement Center (CIMMYT)				
種別	国連(事務局)	国連(基金・計画)	国連専門機関	その他	
所管官庁担当局課名	農林水産省農林水産技術会議事務局国際研究課				
最近3年間の我が国支払額及びODA率					
単位	邦貨 (千円)	外貨1 (千ドル)	外貨2 (千)	レート	ODA率(%)
平成20年度	57,567	509		1米ドル = 113円	100
平成19年度	61,880	533		1米ドル = 116円	100
平成18年度	63,705	574		1米ドル = 111円	100
当該拠出金の目的・用途等	国際共同研究に資する経費等				
拠出上位5ヶ国・地域・機関等 (2008年のもの)				国際機関等の財政 (2008年度決算)	
	国名	金額 (千ドル)	拠出率 (%)	当該年度の収入 43.1百万ドル	
1位	日本	509	100	当該年度の支出 41.7百万ドル	
2位				次年度への繰越 1.4百万ドル	
3位				会計検査機関名	
4位				Deloitte Touché Tohmatsu	
5位					
当該機関等に対する我が国としての評価 (当該機関等の政策に対する我が国の意見の反映度を含む)					
CIMMYTとはこれまで邦人専門家が滞在し共同研究を実施するなど、我が国でも重要な病害である赤かび病に対する抵抗性育種の研究や、乾燥・塩害等ストレス耐性をもった麦類の開発等の研究を実施してきている。CIMMYTは緑の革命の功績によりノーベル賞を受賞した故ポーローグ博士が所属したことが有名であり、現在でも世界の小麦研究のセンター的な役割を果たしており、本事業により小麦赤かび病に関する研究蓄積を有する我が国と連携を密にすることにより、開発途上国の持続的農業の発展に貢献すると考えている。また、CIMMYTは世界の小麦の遺伝子を保存しており、我が国の小麦の品種改良においても重要な役割を果たしている。					
合理化、機能強化のための改革が行われているか。 行われている場合はその現状と我が国としての評価					
現地スタッフの削減や研究テーマの優先度付けが進められ、活動の合理化及び機能強化のための取り組みが積極的に行われており、評価できる。					
邦人職員数 うち幹部以上	2人 うち 0人(注2)		当該機関全体の職員数 及び邦人職員が占める率	598人(注1) 0.3%	
邦人職員が占めている幹部ポスト					
ポストの名称		職員氏名		備考	
(理事 注2)		岩元睦夫		(社)農林水産先端技術産業振興センター理事長)	
当該機関重要ポストへの邦人職員送り込みについての具体的な計画					
当該機関においては、前所長が邦人であったことに加え、理事に関しても、これまで多くの邦人理事の送り込みを行ってきた。現在も13名の理事のうち1名の邦人理事が選出されている。また、多数の小麦の遺伝子を保有する当該機関との共同研究を希望する邦人研究者も多い。したがって、CIMMYTの主要ポストに対し、邦人の雇用に加え、様々な形態で邦人職員を派遣する等今後も積極的に邦人を送り込むための活動を行うこととしている。					

(注1) 出典：CGIAR Financial Report 2008

(注2) 理事は職員としてカウントされていない。